

【全分掌】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	令和6年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
教務部	学力向上	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 学習に課題を持つ生徒が多数入学してくる本校の状況を踏まえ、各教科で基礎基本を重視した指導の充実を促進する。 基礎補充・基礎固め学習会・大学生教育ボランティアによる補充等を昨年に引き続き実施し、成績不振者への指導を継続する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 基礎補充については夏休みに2回、基礎固め学習会については、1学期末考査前に実施した。2学期以降についても引き続き根気強く指導して行きたい。 家庭学習推進週間についても、予定通り実施しているが、学年部と協力し、自主的な学習習慣の確立に向けて引き続き指導を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎補充、基礎固め学習会については、当初の予定通り実施できた。今後も、学年・教科と連携し、引き続き根気強く指導して行きたい。 家庭学習推進週間についても、予定通り実施できた。 次年度は、スタディサプリの活用も視野に入れ、定期考査を軸に学習習慣の定着を目指す方向で、引き続き指導を継続して行きたい。
		学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 各教科、学年部と連携し、家庭学習推進週間など自主的な学習を促進する取り組みを企画、実践する。 Classi等の学習ツールの活用を促進し、教務部の取り組みの強化・充実を図る。 	3	3			
	授業改善	充実した授業の確立	<ul style="list-style-type: none"> 教員生徒相互の信頼関係を基盤に、落ち着いた規律ある学習環境づくりを促進する。 ベル始業、授業はじめ・終わりのあいさつ、携帯電話の注意等引き続き全教職員で一致した指導を行う。 生徒の実態に応じた授業実践を通して、学習意欲を喚起し、主体的に学習する態度を育成する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業については、概ね落ち着いた雰囲気のもと実施できている。今後も全教職員の一致した指導の下規律ある学習環境づくりを継続する。 本年度については例年実施している授業アンケートの内容を教科毎に独自に実施してもらい、取り組みの状況をダイレクトに確認できるよう変更した。 年間2回の公開授業週間、夏休みに行われた教育課程研究協議会の内容を踏まえて、指導力向上に向けて教科内で交流する予定である。 教職員の授業等でのタブレット等の使用についても教科によるバラツキはみられるが、浸透してきており、今後さらにICT教育の推進を図って行きたい。 総探担当者会議については昨年より会議の回数を少なくできて、担当者の負担を軽減できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業については、概ね落ち着いた雰囲気のもと実施できている。今後も全教職員の一致した指導の下規律ある学習環境づくりを継続する。 教科の指導力向上については、公開授業週間・授業アンケート・教科内での授業交流など、予定どおり実施することができた。 授業アンケートについては本年度より教科毎に実施する方法に変更し、より教科指導に即した内容で実施できたと考える。 教職員の授業等でのタブレットの使用についても徐々に浸透してきているが、特別な取り組みは実施できなかった。 2年生探究においては、総探担当者会議を母体とし、予定通り運営できた。
		教科の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学び、行動する生徒の育成を目指し、学習に対するモチベーションの向上を目指す。 公開授業、授業アンケート、教科内交流等を実施し、指導内容、指導方法の工夫改善を促進する。 授業公開等を企画し、電子黒板、タブレット等のICT機器や、Classi、ロイロノート等の学習ツールのさらなる活用を促進し、全教職員のスキルアップを図る。 	3	3			
		新指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価について、生徒の実態に則して適切な評価となるよう各教科と連携し改善を進める。 総合的な探究の時間の実施においては、担当者の負担軽減を図りながら、スムーズな運営と質の高い授業を目指し改善を図る。 	3	3			
	図書館教育	読書内容の深化	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度は貸出冊数の増加が見られ活字主体の図書の利用も増えたが、依然マンガ中心の利用が多い。今年度も広報活動や学年、教科の協力も得ながら活字主体の図書の利用増を目指す。年間の貸出冊数の55%を活字主体の図書の利用となることを目指す。（昨年度47%） 	2	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 読書内容面では、今年度は昨年度より貸出冊数が多い（9月20日現在）が、活字図書の利用は40%と低迷している。司書教諭や図書担当と協力した「図書館だより」による広報を始めたが、今後も続けて実績を出したい。また、今後作成する推薦図書冊子が功を奏するよう期待したい。 教科分掌面では、図書館授業自体は少ないが、必要とされる資料は校外図書館の協力も得て、円滑に提供出来ている。探究学習への情報提供も昨年度以上に出来ている。「教職員向け図書館だより」の発行による情報発信が今後の課題である。 図書委員会活動では委員長・副委員長を中心に各委員の意見を吸い上げ、各種イベントに活かして行っている。後期読書週間でも、さらなる改善のもと、開催できそうである。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書内容面では、今年度は昨年度より貸出冊数が多い（12月末日現在昨年度の1.1倍）が、活字図書の利用は40%と依然低迷し目標数値に達していない。司書教諭や図書担当と協力した「図書館だより」による広報や多くの教職員・生徒図書委員による推薦図書冊子「ほんのもり」も一定の効果があったが利用を増やすには、昼休みや放課後に、利用者（不読書）へのアプローチを図る必要がある。 教科分掌面では、必要とされる資料の提供は円滑に行われているが、インターネット情報への依存が強いようなので、図書資料の重要性をもっとアピールしたい。「教職員向け図書館だより」は発信したいネタはあったのだが、多忙で1号しか発行できなかった。 図書委員会活動では委員長・副委員長を中心に読書週間や冬の図書館フェアなどでかなり生徒主導で運営できていた。来年度もこの流れを続けたい。残念なのは1年間何もしない委員が数名いたことである。
		教科・分掌との連携	<ul style="list-style-type: none"> 「教職員向け図書館だより」の発行などで学校図書館の存在意義についての情報発信を行いながら、2年次の探究学習を始め、各教科・学年・分掌などと連携し、図書館利用を通じて生徒の基本的な情報検索・活用能力を養う。環境整備面ではコピー機の導入を考える。 	3	3			
		図書委員会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意見を取り入れながら読書週間などのイベントを通じて生徒の活躍の場を増やし、図書委員会のさらなる活性化を図る。 	3	3			

【全分掌】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	令和6年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
生徒指導部	基本的生活習慣	生徒が学校に軸足を置いた生活を送れるように、さまざまな指導を全教職員で連携して行う。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上のため、遅刻、制服の正しい着こなし、身だしなみを整えることに重点を置き、指導が必要な生徒には丁寧に話し、寄り添った指導を行う。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 学年や全校で集まる機会がある場で身だしなみの確認や登下校のマナーについて声かけをすることで規範意識を持たせるようにしている。特に大きなトラブルもなく、落ち着いた環境で過ごせている。 スマートフォンやタブレットに関しては、授業中の不正使用が時々みられるため、巡回や各教科担当が呼びかけをして未然に防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な身だしなみ指導だけでなく、日常の指導でも担任や教科担当と連携をし、改善するよう各種指導を丁寧に行った。次年度も引き続き丁寧な指導を行う。 制服の衣替えについて、完全冬服の期間（12/1～4月のフレッシュマンセミナー最終日）のみを設け、その期間以外は個人の判断に任せることを試行した。来年度は年度当初から継続予定。 登下校のマナーについて、近隣住民や、電車の乗客から苦情が数回あったが、その都度教室掲示や集会時に注意喚起、登下校時に巡回する等した。次年度は未然防止を中心に行いたい。 今年度は校内でのSNSによるトラブルは確認していないが、授業中の不正使用が多く見られ、HRや授業の開始で注意喚起をよりこまめに行う。
			<ul style="list-style-type: none"> 登下校でのマナー（電車マナー含む）を周知徹底するとともに、事故の数（特に自転車事故）を少なくできるよう城陽警察や地域ボランティアの協力のもと、注意喚起を継続的に行う。 	3	3			
			<ul style="list-style-type: none"> 全学年がタブレットを所有するようになったことでより一層、SNS等のトラブルを未然に防ぐためにスマートフォン等の使い方やマナーを指導する。 	2	2			
	特別活動	部活動・生徒会活動・ボランティア活動を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> 全部活動で挨拶、礼儀、清掃活動等を行うことで活性化を図る。また、学校行事において部活動員が積極的に参加することにより、学校運営の柱となるようにする。 1年生部活動一斉加入では、未活動者がでないように各部活動で継続的な指導を行い、生徒が活動できる場を提供する。未活動者については学期ごとに活動状況を把握し、指導を行う。また、2・3年生についても3年間継続できるような指導を行う。 生徒会活動を中心にして、各委員会やボランティア活動を活性化し、生徒が主体的に活動できるような環境をつくりサポートする。また、各行事においては新しい取り組みを少しずつ取り入れることを検討する。 	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 活発に活動している部活動が大半である。一方で加入しているもののほとんど参加していない生徒もみられるが対応できていない。 生徒会活動に関しては、担当教員がサポートしながら、生徒が活躍できる場を作ることで、将来的には生徒が主体的に活動できるようになることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動顧問の熱心な指導により、1年生も学校生活に慣れてきたこともあり、部活動以外の活動の中心として動けるようになってきた。次年度以降も、先輩が後輩に引き継ぐ流れと環境を作っていきたい。 1年生部活動一斉加入に教職員間で賛否があったが、60プロジェクト会議で、個々にも学校全体においてもメリットが多いことから次年度以降も継続が決定した。また、未活動者を無くす為の対策を考える必要がある。 教員のアイデアやサポートにより、生徒の活動の機会が増えた。その他の委員会活動では、活動内容によっては、教員の指導やサポートがより必要な場面がある。事の活性化や、校内の活気につながる活動を委員会担当教員と連携して構築いきたい。 文化祭について、来年度は暑熱対策を十分にとった内容を検討している。体育祭では、新しい種目の実施を検討している。
	3	2						
	3	3						
いじめの防止	いじめの定義について全教職員で把握し、いじめに対して早期に対応できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議等でいじめの定義について周知し、生徒についての情報共有や教員間の連携を行うことで早期に対応できるようにする。 いじめ対策委員会を開くことで、情報の共有を密にし、組織でいじめに対して対応できるようにする。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 担任と生徒指導部が連携をして、生徒の変化等の情報共有をすることで、未然防止をしている。年に2回のいじめアンケート調査をもとにいじめ対策委員会を開催して、早期対応を呼びかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任と生徒指導部が連携をして、生徒の変化等の情報共有をすることで、未然防止をしている。年に2回のいじめアンケート調査をもとにいじめ対策委員会を開催して、早期対応を呼びかけている。 今年度も重大事態は認知していない。次年度以降も教職員への呼びかけ等を継続して行い、未然防止に努める。 	
人権教育	学年や分掌・教科と連携しながら、さまざまな人権問題について学習を深め、人権尊重の実践的態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。 「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての教職員にフィードバックする。 	3	3				3
		3	3					

【全分掌】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	令和6年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
進路指導部	キャリア教育の推進および希望進路の実現	生徒の進路に対する意識を高め、希望進路の実現に向けた意欲と学力を向上させるとともに、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。	・キャリア教育実施計画に基づいて進路学習を充実させ、家庭・地域との連携を柱とした「TAG城陽」の取組を推進する。また、就職の複数応募制度や新学習指導要領に対応した新入試への研究を深める。	3	3	3	・キャリア教育実施計画に基づき、進路学習を実施した。就職の複数応募制度を活用した生徒は一次応募の時点でいなかった。新学習指導要領に対応した新入試への研究については継続して取り組んでいく。 ・1年6月「どれ道学習」について、来年度に向け、「売り手市場」になっている高卒求人の状況を鑑み、生徒一人ひとりが職業・産業の多様性を理解し、自分自身の生き方・あり方を踏まえた進路選択に繋がられるような内容・実施形態を検討する。	・キャリア教育実施計画に基づき、進路学習を実施した。新学習指導要領に対応した新入試については、大学入学共通テストの実施科目以外の大きな変化は見られなかったが、次年度以降も引き続き注視していく。 ・今年度の総合型選抜、学校推薦型選抜の本校からの受験者、合格者が過去最多を更新した。この傾向が次年度以降も続く予想であることを踏まえ、より適切な受験指導のあり方を検討する。 ・1年6月「どれ道学習」について、「売り手市場」になっている高卒求人の状況や、進学希望者が増加している状況を鑑み、生徒一人ひとりが多種多様な職業・産業・学問があることを理解し、自分自身の生き方・あり方を踏まえた進路選択に繋がられるような内容・実施形態を検討する。
			・就職補講や進学補講、業者模試等を適切に実施することで、主体的に学習に取り組む生徒集団を形成するとともに、生徒が自分自身で進路を切り拓く能力や態度を養う。	3	3		・生徒の進路希望に合わせて就職補講や進学補講、業者模試を実施した。情報収集能力や進路選択における主体性をより高めていく指導が求められている。	・生徒の進路希望に合わせて就職補講や進学補講、業者模試を実施した。引き続き情報収集能力や学習行動・進路選択における主体性をより高めていく指導が求められている。
			・「進路のしおり」の充実を図り、各種説明会を実施することで最新の進路情報を適切に提供するとともに、学年部と連携し生徒とのカウンセリングの機能を高める。また、ICT機器を活用した進路指導を推進する。	3	3		・3年向けの各種説明会について、実施内容・時期を再検討する必要がある。 ・教育プラットフォーム「Classi」やWebサービス「マナビジョン」「Compass」を活用し、進路希望や業者模試の結果等を学年部と即時的に共有することができた。 ・生徒のニーズが複雑・多様化している現状を踏まえ、現在の取組を再検証するとともに、生徒の個別最適化学習、進路意識の高揚を支援し、質の高い進路指導が実現できる適切なサービス・方策を検討する必要がある。	・3年向けの各種説明会について、実施内容・時期を再検討する。 ・教育プラットフォーム「Classi」やWebサービス「マナビジョン」「Compass」を活用し、進路希望や業者模試の結果等を学年部と即時的に共有することができた。 ・生徒のニーズが複雑・多様化している現状を踏まえ、生徒の個別最適化学習や、進路意識の高揚を支援し、質の高い進路指導が実現できる適切なサービス・方策を検討する。
保健部	保健管理	生徒の理解（教育相談）と支援	・健康診断や健康相談を実施し、生徒の健康状態の把握と指導に努める。 ・担任や教科担当者と生徒の情報を共有し、教育相談会議を通して、支援につなげる。 ・特別支援教育の視点を活かし、支援対象生徒の把握と支援に努める。	3	3	3	・4月に健康診断を実施し、定期考査ごとに教育相談会議を開催した。	・4月に健康診断を実施し、12月以降に持久走やロードレース大会に向けての健康相談を実施した。 ・定期考査ごとに教育相談会議を開催し、配慮の必要な生徒について学校として支援できた。 ・考査支援が必要な生徒に対して、先生方の理解と協力を得て、適切な支援を実施することができた。
	校内研修	教職員の指導力向上	・AEDの使用法も含めた救急救命の校内研修会を実施することで、生徒が倒れた場合などに、教職員が適切な対応を取れるようにする。	3	3	3	・6月にAEDの使用法を含む救急普及講習を実施した。	・6月にAEDの使用法を含む救急普及講習を実施した。 ・来年度はできれば熱中症予防の研修会を実施したい。
	安全管理	校内美化・環境整備	・保健委員会の活動の一環として校内美化に取り組み、各学期に1回は校内美化の活動を行う。	3	3	3	・保健委員会の活動として、1学期は健康診断の準備とHR教室の清掃点検を行った。	・保健委員会の活動として前期と後期に清掃点検を行い、校内美化に努めた。

【全分掌】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	令和6年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
総務企画部	外部評価	学校評価アンケートの回答数確保及び年度比較による取組の検証	「学校評価アンケート」について、昨年度に引き続きあらゆる手段を講じて回答数の増加を目指す。「回答結果の年度毎の推移」を、今後の本校のあるべき方向性を検討するための材料に資するよう努める。	/	2	2	・今年度も例年に倣い1月に実施を予定している。ICT化にともなう回答数の減少を回復するためにあらゆる手段を講じたい。	・課題であった回答数は今年度309件と昨年度281件より10%増加したが、依然全校生徒保護者数の過半数に満たない数である。次年度以降、さらなる方策を講じる必要がある。
	家庭・地域社会との連携	P T A、関係各種機関との連携、協力を進めるとともに、効率的な連絡手段を活用した運営に努める。	P T A 諸会議の運営に係る打ち合わせ等について、夜間の会合を精選するとともにSNS等の連絡手段の活用し、P T A 役員間連携を図り、より効率的なP T A 諸活動の運営に努める。	3	3	3	・PTA支援事業として、今年度は新たに文化祭でのキッチンカー導入とともに体育祭でペットボトル飲料配付を行った。今後、それぞれの成果と課題を総括し、次年度の事業計画に繋げたい。	・コロナ禍後を見据え、文化祭にキッチンカー導入等、新たな取り組みで得た成果は次年度も継続させていきたい。また、次年度入学生より「入会届」による入会・非入会がどのように影響するかが懸念される場所である。
	広報	地域及び次年度生徒募集に資する広報活動を行う。	「進化から深化へ」のスローガンに基づき、訴求力のある情報発信に努めるとともに、「深化」していく本校の姿を山城管内中学校・保護者等・学習塾等に広くアピールしていくことを目指す。	3	3	3	・夏の部活動体験や9月28日実施の学校説明会・部活動体験は成功裏に終えることが出来た。今後、11月9日の学校説明会及び11月30日の「冬の個別相談」が充実したものになるよう、準備を進めていきたい。	・今年度の「冬の個別相談」は例年に比べ来場者が多かった。この催事は次年度以降も開催すべきと考えるが、ここ数年の酷暑の中で「夏の部活動体験」をどのように開催するか、学校説明会のタイミングと内容をどうするか等を見直していく必要がある。
			広報活動全般について、「生徒の主体的な活動」を中心とした展開に努める。	3	2	2	・9月28日学校説明会では、男子バスケットボール部マネージャー及び同部1年生部員が生徒発表を盛り上げてくれたことを有難く思っている。ただし、次年度に向けても活動に参画してくれる生徒の掘り起こしという面は、常に考えておきたいところである。	・「生徒の主体的な活動」を中心とした展開していくためには、生徒の学校生活における満足度を上げることが必要だと考える。しかし、決して生徒に迎合することが満足度（や学校の魅力）に結びつくものではないであろう。次年度も引き続き広報活動への有志参画を募ることに変わりはないが、広報活動の展開が学校の魅力度アップに資するようありたい。
			公式HP運営に当たっては、外部に向けた広報機能を堅持するとともに、月間行事予定等、学校関係者にとって有用な情報の提供を心がけ、小まめな更新に努める。	3	3	3	・公式HPは十分に機能しているところだが、HP制作会社から提案の「京都みらいネットプラン」について、検討してみてもどうかと考える。	・年度当初に掲げた具体的方策は概ね達成出来ていると考える。公式HPは平成29年にリニューアル後現在に至るが、HP制作会社提案「京都みらいネットプラン」について、その内容を研究し、よりよき方向性が得られるのであればHP刷新を、またSNS活用の可能性についても視野に入れてはどうか。
国際理解教育	国際理解教育講座の円滑な企画運営	年間LHR計画の中に国際理解教育講座を位置づけ、より生徒が興味・感心をもって学習することが出来る内容を企画する。	/	3	3	・1月に開催予定の国際理解教育講座にむけて、京都府国際課「令和6年度京都府名誉友好大使」を活用した内容の企画を進めていきたい。	・1月21日に京都府名誉友好大使、ラブロー・セーニャ氏を招いて実施したところ、生徒の反応は良かったようだ。今後も引き続き府名誉友好大使を活用した企画を進めたい。	

【全分掌】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	令和6年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
第1学年部	生徒指導 特別活動	礼儀や規律の姿勢を身に付けさせる行事、部活動への積極的参加を促す。	関係分掌及び家庭と連携し、日常的に細やかな指導を行う。 学校生活の重要性を認めることができるよう、様々な観点から生徒と学校を関わらせていく。	2	2	2	・入学当初から様々な生徒指導が発生しており、不注意からの生徒指導が特に多い。集団での指導が身に入らない生徒が多いため、継続した指導が必要である。部活動を退部、及び再加入しない生徒や加入後も活動しない生徒が複数いるので、継続して加入を勧めるようにしたい。	・一年を通して生徒指導が非常に多かった。学校行事の都度、学年集会として全体への声掛けや、生徒指導を受けた生徒に繰り返し指導を行ってきたものの、入学当初から指導が身に入らない生徒が多く、指導の難しさを痛感した。次年度も継続して丁寧な声掛けや指導が必要である。 ・部活動に関しても、途中退部する生徒が多く、城陽高校への帰属意識が弱いまま一年間を終えることとなってしまった。 ・来年度は、大きな学校行事も控えているので、うまく活用しつつ帰属意識を高めていきたい。
	進路指導	進路目標を早期に設定させる。文理選択を適切に行わせる。	進路指導部の計画に沿ったキャリア教育を進めながら、小まめな面談や丁寧な観察を行い個に応じた指導を行う。	3	3	3	・進路指導部の計画に合わせたキャリア教育と共に、教科とも連携して進路指導を行っている。	・進路指導部との協力や、教科での課題として進路に絡めた内容を含めるなどして、進路に目を向けさせることができた。 ・来年度は、進路をより具体的に見据える準備をさせていく指導を他分掌、教科とよりコミュニケーションを取りながら進めていきたい。
	学習指導	成績不振科目を保持させない。	教科担当者と連携をとりながら学習習慣を定着させる。	2	2	2	・非常に多くの生徒が多くの教科で成績不振科目がある状態である。数が多いからか、全体的に危機感を覚えている生徒が少ないように感じられるので、教科とも連携して指導を継続する必要がある。	・成績不振の生徒も中々減らない状況が続いた。生徒指導と同じく、全体に声掛け、指導は繰り返しているものの、上級生からのなんとかなる、という安直なアドバイスを信じたり、成績不振者数が多いことで安心したりする生徒が多い。 ・また、成績上位の者も伸び悩んでいるので、成績下位層、上位層どちらにも丁寧な声掛けが必要である。
第2学年部	学習指導 進路指導	進路目標を明確化させる。	科目登録を契機として進路目標の明確化に向けた情報収集を行わせるべく、進路学習や面談を積極的に活用する。	3	3	3	・進路学習等計画的に実施できている。	・進路指導部の計画に沿いながら各担任が実態に応じたフォローを行い進路目標を明確にさせた。
		基礎基本の学力を定着させ、より発展的な学力を身に付けさせる。	教科担当者と情報交換を密に行い、指導の余地を残さないようにする。	3	2	2	・指導自体はできているが結果が表面化していない部分がある。	・具体的方策に従い、ワンランクアップの成果を目指す指導を行ったが発展的な学力までには至らなかった。
	生徒指導	規範意識を徹底させる。	日常の細やかな観察を行い、ルールを守ることを徹底させる。	2	2	2	・日常の細かい部分で徹底しきれていない。	・生徒指導上の大きな事象はなかったが、日常的な細かい部分で成果が十分あがらなかった。
	特別活動	個々の生徒が充実感、達成感を感じられるように指導する。	文化祭、体育祭、研修旅行等の学校行事において、全ての生徒に役割を担当させ、責任感と集団への帰属意識を持たせる。	2	3	3	・未実施の行事がある。	・各行事で概ね目標を達成できた。特に研修旅行は生徒が主体的かつ秩序のある行動ができ、満足度も高かった。

【全分掌】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	令和6年度の成果と課題・次年度の方向性
				中間	期末	総合		
第3学年部	学習指導 進路指導	熟考した上での進路の実現に向けて努力を重ねられるように、進路指導を丁寧に行う。	新課程での入試に向けて、しっかり情報収集させ、希望進路を実現させられるようサポートする。 各分掌や関係機関と連携して進学や就職に向けた適切な指導を行う。また、教科担当者とも連携を取り、普段の授業を大切にさせる。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 今年度から始まった総合型選抜の定員増での影響を心配したが、その適正の合う生徒が少なく、また、受験者がほぼ受かる学校もあり、指導が難しい。 S自己推薦書の指導について至る所でご迷惑をお掛けしている状況である。出願に関しても、ネット出願が広まり要項を読み切れていない生徒とのやりとりに疲弊している。 	<ul style="list-style-type: none"> 年内の進路決定者が256名中185名。この数が昨年度と比較してどうなのかはわからないが、今後も同様な状況になると思われる。この状況に対して事前にどのような対策をするかが今後の課題。
	生徒指導	規律、規則の重要性を理解し、自ら考え、集団を意識しながら行動できる力を身に付けさせる。	様々なルールをただ守らせるのではなく、理由を理解させたうえでの継続指導をおこなう。適切な場面で、「人権尊重の考え方」に触れ、人権意識を高める。	2	2			
	特別活動	学校行事、部活動を通しての人間形成	最高学年として、下級生の模範となる行動を実践できるように心掛けさせる。 部活動や学校行事を通して、生徒一人一人の自己有用感を高め、「城陽高校への思い」のこもった良好な学校生活の基盤を作る。	2	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 行事に関しては一定レベルのものを見せられたのではないかと思うが、このことは周囲からの評価で判断したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事も含めて、昨年度と変更したことが多い学年ですので、周囲から見てどうであったかを評価していただきたい。
事務部	渉外	学校と住民・来校者等をつなぐための、迅速で適切な窓口対応、電話対応を行う。	学校行事、校時、教職員の動向の把握に努め、事務室内で情報共有する。 来校者の目的・用務先等を正確かつ丁寧に把握し、来校者が円滑に目的を果たせるよう努める。	3	3			
	就学援助	生徒と保護者が安心して教育を受けることができるための経済的支援体制の充実に貢献する。	就学支援金や奨学金などの各種援護制度について、生徒と保護者へ周知が図れるようClassiやホームページの活用をより進める。 生徒に不利益が生じないように、状況に応じて学級担任や他分掌との連携を密にする。	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 生徒へ配布のプリントのみならず、Classiを活用し、各種制度の周知に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒へ配布のプリントのみならず、Classiを活用し、各種制度の周知に努めている。 Classiの活用により、生徒・保護者からの申請が増え、経済的な援護につながっている。
	施設設備	安心安全な学校の環境整備に向けて最善を尽くす。ICT環境野整備を図る。	状況改善のための迅速な対応に努め、生徒や保護者に向けた報告等を心がける。 ICT環境整備に向けて関係分掌との連携を図り、機器の整備に努める。	3	3			

【全教科】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性
			中間	期末	総合		
国語科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。また、生徒が理解しやすく、意欲が高まる授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を確保するため、授業開始と終了時の挨拶（起立・礼）をしっかりと行うなど、学習に向かいやすい環境作りに努める。 ICT機器や各種資料を効果的に活用することで学習意欲を喚起し、理解しやすい授業を展開する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律は一定保たれている。引き続き学習環境作りに努めていく。 また、ICT機器や各種資料を準備しながら授業を展開してはいるが、さらに有効な方法はないか引き続き模索していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律は一定保たれている。来年度も生徒が学習しやすい学習環境づくりに努めていきたい。 また、ICT機器を活用しながら、授業を展開したり課題の提出を行ったりはしている。しかし、それにより学習意欲が喚起されているとはいいがたく課題も残っている。次年度はスタディサプリなどを活用しながら、より一層効果的な指導につとめたい。
	国語の学力を向上させ、生徒の希望進路実現に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 予習復習、課題を定期的に課すことで家庭学習を行う習慣をつけさせる。また、小テスト等を適宜実施することで、学力の向上を目指す。 配慮が必要な生徒や大学進学を考える生徒が増えている実情を踏まえ、個々の学力に応じた指導を強化する。また、大学入試対策として、1年次から小論文対策指導を行っていく。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 課題や小テストは適宜行っているが、家庭学習の定着や学力の向上にまでは至っていない。 一方で、大学進学希望者に対しては前・後期及び夏期の進学補講、HOPE講座を実施し、必要な生徒に対しては、個別指導も行っている。また、1年生の「現代の国語」では、1学期・夏休みを通じて、小論文対策の課題を課しており、指導を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題や小テストは随時行っているが、勉強する生徒としない生徒の差がより一層広がっている。来年度は、成績の良くない生徒への対応を模索していきたい。 1年次からの書く指導は授業アンケートの結果からも一定の効果があると考えられる。来年度は三学年での小論文指導を実施するので、より体系的な指導を目指していきたい。また、大学進学希望者には進学補講やHOPE講座を行い、適宜個別指導も実施した。
地歴公民	世界の諸問題に対する思考力の向上と、主権者としての政治的教養の育成	<p>歴史では日本史と世界史を関連させ、図表等を効果的に活用し、世界における日本文化の特質を理解できるようにする。また、広い視野から世界の諸問題について考える力を養う。</p> <p>地理では地図帳・資料集を活用し、生徒の問題意識を視覚的側面からも刺激する。</p> <p>公民では現代のニュースと授業を関連させ、最新のデータ等を効果的に活用して生徒の知的好奇心を喚起させるとともに、主権者としての自覚をもたせる。</p> <p>ICTの活用機会を増やし、様々な図や資料を掲示することで、生徒のさらなる意欲・関心の向上に取り組む。</p>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において、重点目標を達成するための具体的方策について、概ね達成できている。 タブレット等のデジタル機器の使用については、教科内のほぼすべての教員が実践している。 一方で、引き続き、授業を通じて生徒の学力向上に結びつけていく課題に向き合い、その場限りの学習に終わることのない中長期的な授業の展開を目指すとともに、家庭学習課題や定期考査を通じて、生徒自身が学びを実感することができる授業を展開していくことに努めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目において、重点目標を達成するための具体的方策について、概ね達成することができた。 一方で、定期考査の結果などから、生徒の学習に対する意欲や計画性に課題が見受けられる部分もある。 次年度もその場限りの学習に終わることのない中長期的な授業の展開を目指すとともに、家庭学習課題や定期考査を通じて、生徒自身が学びを実感することができる授業を展開していくことに努めたい。

【全教科】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性
			中間	期末	総合		
数学科	学習意欲を喚起し、確かな学力の定着を目指す。	私語のない、授業規律の確保に努める。	3	3	2	・クラス・講座とも、私語のない授業が行えている。	・授業では私語がなく行えている。
		(週末)課題を与え、学習習慣をつけさせ、また、小テストを行い基礎力の定着を図る。	2	2		・小テストや週末課題を実施する中で、学習習慣をつける生徒はいるものの、基礎力の定着を図れたかは、まだ課題である。	・学習習慣は、週末課題を定期的に提出させ身についている。基礎の定着は、低学力層の生徒が多く、検討する必要がある。
		ICT機器の活用やグループワークなどで、生徒の学習意欲や理解力向上を目指し授業改善を模索していく。	2	3		・グループワークなどで、生徒の学習意欲・理解力の向上を行っているが、ICT機器を活用した授業改善を今後は模索していきたい。	・授業内容の説明をICTを活用し行っている。生徒の活用として、問題の解説などでICTを活用し共有することができればと思う。
		個に応じた指導を行い、様々な学力層の生徒に対応した指導を行う。	2	2		・基礎固めや進学補講を行っているが、低学力の生徒が多いため、個に応じた指導までできているわけではない。	・基礎固めや進学補講を行っている。 ・低学力の生徒が多く、危機感を感じていない生徒への対応を考える必要がある。
理科	確かな学力の定着	その単元での到達目標を明確にし、教員が理解し授業を実施するとともに生徒にも明示し、基本的な知識を身につけ積み上げていくことの重要性を意識させる。	3	3	3	・単元での到達目標とともに、各授業での目標も立て、継続的な学習に取り組ませた。	・単元の到達目標をはじめ、各授業において見通しをもった継続的な学習に取り組ませることはできた。一つの科目に複数の教員で取り組む科目においては、より教員同士の連携を深めるようにしていきたい。
		小テスト、週末課題を適切なタイミングで継続的に実施する。	2	3		・科目によって、実践具合に差がある。	・小テストにおいては、授業数が少ない科目（週2単位など）では、数多く取り組むことが難しい状況になっている。
	主体的・協働的な学びの推進	理科が日常に結びついていることに気づかせ、生徒が学びたいと思うような授業を実践する。	2	2	3	・日常生活に関連付けて説明や思考学習などを行うが、単元によってはできていないこともあった。	・各教員の専門科目でない授業では、日常生活に結び付けるなどの生徒の興味を引くような授業づくりが難しい面があった。
		デジタルコンテンツを中心とした視聴覚教材や実物等も用いて、生徒の興味関心をひきつける。	2	3		・教科書だけでなく、資料集もデジタル教材を用いることで視覚的な興味・関心を持てるよう工夫している。ただ、実物を用いる機会はあまり多くない。	・資料集やデジタル教材など、各科目で工夫してデジタルコンテンツを使っていた。実物に関しては、なかなか実践できなかった。
		生徒がタブレットを活用し、他者とともに考えながら学べる機会を設ける。	3	3		・グループワークや問題演習及び、個人の思考学習などでタブレットを用いている。科目によっては使用頻度に差があるように思う。	・教員によって課題の取り組み方に差が出ている。各教員で情報交換などの機会を増やしていきたい。
	不断の授業改善	教科内での交流を大切に、互いの良いところを取り入れるなど、授業改善に努める。	3	3	3	・学期の初めや考査前後は各科目で進め方の確認を行っている。また、進捗状況の確認も行っている。	・進捗状況の確認や、各基礎科目の考査の回覧などは行った。公開授業週間やそれ以外でも他の科目の授業を参観する機会を増やしたい。
		教科研修を実施し、専門性の向上に努める。	1	3		・3学期の中間考査を目途に開催予定	・けいはんなプラザにて関西文化学術研究都市開発推進機構の方のお話と、ATRにてサイバネティックアバターのお話を聞かせていただいた。身近にこれだけの研究を行う企業が多くあることを改めて認識することができた。
日々の授業において観点別評価を行い、その結果を分析し、授業改善に努める。		3	3	・全ての授業では観点別評価を行えていなかった。		・より多くの場面で様々な観点別評価が行えるよう、模索していきたい。	

【全教科】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性
			中間	期末	総合		
保健体育科	集団の規範意識の向上	・挨拶(授業開始、終了時、日常)の徹底	3	3	3	・成果として、集団の規範意識は向上している。また、ここ数年で年々向上してきているように感じる。しかし、校内にゴミが落ちていることや、体育授業後の遅刻が見受けられることなどから、一部意識の低い生徒は存在するため、学校として一貫した指導を継続していくことが必要である。	・成果として、集団の規範意識はここ数年で向上している。しかし、左記のような意識の低い生徒は存在するため、学校として一貫した指導を継続していくことが必要である。 ・また、今年度も授業の際の盗難については、他教科でも移動教室の際は活動場所へ全ての荷物を持参するよう指導していることもあり、確認していない。引き続き、荷物の整理整頓の指導にも取り組んでいく。
		・服装・身だしなみの指導、頭髪・装飾品の確認、荷物の整理整頓の徹底	3	3			
		・体育後の授業遅刻に対する指導	2	3			
	主体的・協働的で体力、考える力を育む授業	・ICT活用から生徒の主体的な学びを促進する指導	2	2	2	・成果として、保健の授業においては、教室でICTの活用から生徒の主体的な学びを推進できている。体育においては、活動場所には通信環境が整備されておらず、ICTの活用ができない課題がある。 ・指導方法については、一斉・個別を使い分けることで、集団としての技能の定着率は向上していると感じる。また、集団の一体感の醸成にも繋がっているように感じる。	・成果として、保健の授業においては、教室でICTの活用から生徒の主体的な学びを推進できている。体育においては、活動場所には通信環境が整備されておらず、ICTの活用ができない課題がある。 ・指導方法については、次年度も一斉・個別を使い分け、技能の定着率向上、集団の一体感の醸成にも繋げていく。その上で、学年を重ねる毎に、リーダーシップとフォロワーシップの育成に努め、主体的な学びを促進することが次年度の課題である。
		・リーダーシップとフォロワーシップの育成	2	2			
		・一斉・個別指導の使い分けと適切な水準の課題設定により、達成感・充実感を味わうことができる指導	2	3			
授業の準備・事後処理	・施設・用具点検、安全確認	2	2	3	・成果として、新カリキュラム三年目となり、カリキュラム自体と評価についての研究は教科内で進められており、形になってきている。 ・課題としては、施設の老朽化、劣化が著しく、男女の更衣場所の整備が必要である。	・成果として、カリキュラム自体と評価については、形になってきている。生徒の実態に応じて、見直しが必要な部分については、検証をしていくことが今後の課題である。 ・また、施設、用具の劣化、消耗が著しい。修繕、更新していける部分、物については対応が必要である。熱中症予防のための空調整備も対応を検討していただきたい。男女の更衣場所の整備が必要である。	
	・新カリキュラムの精選および評価研究	3	3				
芸術科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。 また、生徒が理解しやすく、興味関心を持てるような授業を展開する。	・授業規律を確保するため、授業開始と終了時の挨拶、授業準備と片付けをしっかりと行い、学習に向かいやすい環境作りに努める。 ・ICT機器や各種資料を効果的に活用することで生徒の興味関心を喚起させ、分かりやすい授業展開を目指す。	2	3	3	・学習に向かいやすい環境作りに関しては、概ね達成できている。 ・ICT機器の活用に関しては、科目によってばらつきがあることや、タブレット等を使用することで生徒が探求心を持って取り組むことの難しさを感じている。 ・今後、作品鑑賞やタブレットを用いたの作品制作等にも活用していく。	・学習に向かいやすい環境作りに努め、概ね達成できた。 ・各種資料を活用し、常に生徒の理解が深められるよう取り組んだ。 ・ICT機器を活用し、題材ごとに作品や活動を記録することで生徒自身が活動を振り返ったり、それを元に相互鑑賞・交流できるよう授業を展開した。 ・今後、生徒が探求心を持って学習活動に取り組めるよう、効果的な活用方法を模索していく。 ・今年度、講座毎の授業時間数に10時間以上(3学期中間時点)の差があり、必要に応じて放課後に補充を行ったが、同等の制作・活動時間の確保が困難であった。

【全教科】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性
			中間	期末	総合		
英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」を身に付け、多様な進路選択に対応できるよう、授業等の創意工夫に努める。 ・ICT活用、多様な言語活動、多面的な評価の充実により、生徒達の英語学習へのモチベーションと英語力の向上を目指す。 ・英語に苦手意識を持って入学してくる生徒が多い中、生徒達が授業を通して達成感や自己有用感、自らの成長を感じられる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を定着させるため、各学年とも定期的に(週1～2回以上)単語テストなどの小テストを実施し、週末課題を課すなど計画的に取り組む。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、必ず1週間に1度は単語テストなどの小テストを実施している。プログレッシブコースに於いては、大学進学に備えて追加の課題並びに模擬試験対策の課題を出している。 ・年度末までに生徒たちのモチベーションを維持させながら、継続して取り組むように努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年、必ず1週間に1度は単語テストなどの小テストを実施した。プログレッシブコースに於いては、大学進学に備えて追加の課題並びに模擬試験対策の課題を与えた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・個人・ペア・グループでの言語活動(音読、対話練習等)の機会や各レッスンのテーマについて考える機会を増やすことで、英語でコミュニケーションを取ろうとする態度を養うとともに、主体的に学ぶ態度を養う。 ・またパフォーマンス課題(音読テスト、レシテーションコンテスト等)を課し、英語で話すこと、人前で発表すること、自己表現の楽しさを実感させる。AETを積極的に活用して4技能5領域の向上を目指す。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の単元を活用して具体的方策で記述している言語活動を積極的に取り入れている。 ・パフォーマンステストとして、プレゼンテーションや音読テスト、授業内でもペアやグループでの言語活動を積極的に取り入れている。教科書の単元に関連した調べ学習なども実施している。 ・年度末までに生徒たちのモチベーションを維持させながら、継続して取り組むように努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、教科書の単元を活用したり、あるいは関連したテーマでプレゼンテーションなどの言語活動を積極的に取り入れた。レシテーションコンテスト(1,2年生)やプレゼンテーション等のパフォーマンステストを実施し、人前で発表する機会を定期的につくり、意欲向上に務めた。 ・これ以外でも個々の教員が日常的にペア・グループワークを取り入れ、調べ学習なども実施した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現のためのスキルアップ、英語力向上の手段としてGTECの受験を奨励する。即興性のあるスピーキング力や自らの意見を論理的に伝えるためのライティング力の向上を軸としたGTEC対策を授業に取り入れ、サポート体制を強化する。 ・HOPE講座や進学補講等を通して、入試対応力を育成することで生徒の進路実現を支える。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生においては、授業の一環としてGTECの事前学習を実施しており、4技能の総合的な育成に努めている。HOPE講座や進学補講等を通して、入試対応力の育成に尽力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生においては、授業の一環としてGTECの事前学習を実施しており、4技能の総合的な育成に努めた。 ・さらに、各学年で実施しているHOPE講座や進学補講等を通して、入試対応力の育成に尽力した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・BYODによるiPad導入に伴い、教科内で効果的なICT活用法について活発な情報共有を行い、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びの推進に努める。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを活用した個人又はグループプレゼンテーションを定期的実施している。ロイロノートを導入して、音読テストも実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadを活用した個人又はグループプレゼンテーションを定期的実施した。ロイロノートを導入して、音読テストも実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・英語をコミュニケーションの手段として使う経験を通して、英語を使う楽しさを実感し、将来海外の人と積極的に関わろうとする生徒を一人でも多く育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での英語での発表活動、イングリッシュチャットなど、生徒達が英語に対する興味関心を深められるような活動を企画、実行する。また、総務企画部と連携し、校外外にその様子を報告する。 	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの生徒がALTや英会話に親しめるように、教員たちが校内を巡回して生徒たちに話しかけるイングリッシュチャットを実施している。さらに、例年通り、Odd Socks Dayを11月に実施する予定である。 ・3年生に於いては、英語特講の授業で海外の高校生たちとオンライン上の交流とおして、実践的な英語を学んで運用する機会を取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの生徒がALTや英会話に親しめるように、教員たちが校内を巡回して生徒たちに話しかけるイングリッシュチャットを実施したが、2学期以降定期的な実施ができていない。 ・昨年度に引き続きOdd Socks Dayを11月に実施した。また、今年度初の取り組みであったプライドウィークに合わせて、授業でも多様性を尊重するスローガンを考えるなどの取り組みを行った。 ・3年生に於いては、英語特講の授業で海外の高校生たちとオンライン上の交流を通して、実践的な英語を学んで運用する機会を取り入れた。加えて、2回のビデオ電話やお土産交換などを行うことで、異文化に触れ、興味関心を持つ生徒が増加した。 	

【全教科】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）最終評価

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題	成果と課題、次年度の方向性
			中間	期末	総合		
家庭科	主体的に考え、実践できる学びをすすめる、生活を自分事として創造する姿勢を育む	・3年生選択科目において、生徒が主体的に学ぶ活動を充実させる。フードデザインは食育に関するパフォーマンス課題、保育基礎は保育実習とそれに関わる取り組み、ファッション造形基礎では4単位から2単位への変更に対応したゆかた製作において実践する。	2	4	3	・これから実施する取り組みが多く、また取り組んでいる最中のももあり、評価が難しい。 ・生徒は主体的に学ぶ姿勢をもって日々の授業に取り組んでいるように見える。	・予定通り実施でき、生徒が主体的に学ぶ活動が増えたことで、生徒も学びが深まったと感じていることがアンケートでわかった。結果的に学びがいに繋がっている。
		・1年家庭基礎において、考えを記述させる時間を設けることで、生徒一人一人が自己を振り返り自分の考えをまとめることができるようにする。	2	3		・記述の様式に字数制限を加えたところ、単語での回答がなくなり、箇条書きも減り、文章としてまとめようとする意識が一定高まったように見える。ループリックを伝えることで、書き込む内容の具体性があがった。	・中間報告では一定成果を示したが、それ以降、プレゼン力の育成が課題にあがった。
		・ペア活動やグループ活動を通して、自分の考えを他者に伝えることで、他者の価値観に触れられるようにする。	2	3		・他者との意見交流はスムーズに活動している。活発でない所が見られた時には声かけをしているが向上しないことが課題である。	・生徒の多くはグループ活動を通しての学びに対して高く評価しているため、他者との学び合いの場面はこれからも大切にしたい。活動がスムーズかつ活発になるために共有ノートの使用が適当かどうか検討していきたい。
	新観点別評価への対応	・3年生選択科目（3科目）において、新観点別評価に対応する。	3	2	2	・それぞれの科目で試行錯誤しているが、実技を豊富に実施する科目にありながら、フードと保育基礎については第①観点を評価する数が少ないことは今後の課題である。	・フードについては昨年度実施していた切り方テストを既存の活動で評価できるよう、場面の選定をしたい。 ・保育については実習を通して観点のバランスを改善できたが、どちらも今年度の実施を整理する必要がある。
商業科・情報科	「わかる授業」の実践を行い、個々の生徒に応じた学力の伸長を目指す	基礎基本を徹底し、定期考査の平均60点を目標に、個に応じたきめ細かな指導を実践する。	3	3	3	・落ち着いた環境の中で授業を行うことができている。また、学力の底上げができつつあると感じている。	・「分かりやすい授業」を意識し、定期考査の平均60点を目標し指導を行い、ほぼ目標を達成できた。次年度も、「分かりやすい授業」の充実に向けて、必要に応じて工夫改善をしていきたい。
		個に応じた「確かな学力」を身に付けさせるため、わかる授業を意識した授業を行い、学年末の成績による不振者0を目指すとともに、各種資格取得を目指す生徒の希望を実現できる学力を身につけさせる。	3	3			